

神戸空港の国際化

～国際都市としての新たな可能性～



神戸市長

久 元 喜 造

巻頭言

神戸市は2025年4月18日に新たに神戸空港第2ターミナルの供用を開始し、韓国・中国・台湾の3カ国・地域の5都市（ソウル（仁川）・上海（浦東）・南京・台北（桃園）・台中）との間で国際チャーター便の就航が始まりました。またゴールデンウィーク期間中のベトナムとの国際チャーター便やスカイマークによる10月4日～10日の台北（桃園）との国際チャーター便の就航など、神戸の空の新たな玄関口として順調なスタートを切ることができました。国際チャーター便と利用者の皆さまを安全・着実に迎え入れていただいている国関係機関や空港関係者の皆さま、また国際化の成就に至るまで多大なご尽力をいただいた関西3空港懇談会の座長である関西経済連合会の松本会長や、関西エアポート（株）の山谷社長、そして関係自治体の皆さまにも改めて感謝を申し上げます。

神戸港は日本有数の国際貿易港として、1868年に開港し、また74年には神戸―大阪間で鉄道が開業し、戦後には高速道路が敷設され、新幹線も開業するなど、神戸はこれまで交通の要衝として発展してきました。長い年月と激しい議論の末に、先人たちの努力によって2006年に神戸空港は開港しましたが、発着枠や運用時間の制限がある中でも、国内の充実したネットワークを構築し、都心三宮に近接する利便性の高い海上空港として、開港以来、多くの皆さまを日本各地の都市へと運ぶ役割を担ってきました。18年から関西エアポートによる神戸空港、関西空港、大阪（伊丹）空港の3空港一体運用が始まり、このたびの神戸空港の国際化によって、陸・海・空の交通の要衝とし

ての地位がさらに高まり、国際都市神戸の新たな可能性を手にしたと考えています。

再開発を進めている都心三宮やウォーターフロントエリアをはじめ、神戸空港を通じて訪れていただく国内外の皆さまにとって魅力あるまちとなるよう、新しい時代にふさわしい都市基盤を整備していきます。ビジネス面では、例えば神戸空港に近接する神戸医療産業都市にとって神戸で開発された医療機器やヘルスケアサービスの海外への販路拡大への大きなチャンスとなるものであり、神戸の企業の海外展開を支援していきたいと考えています。観光面でも神戸市内へのインバウンド需要の波及効果が期待でき、「受入環境の整備」「コンテンツの磨き上げ」「プロモーションの強化」の3つの視点で総合的に観光施策を展開していきます。

さらに、神戸空港が西の玄関口である視点で捉えると、兵庫県西北部や中四国をはじめとする神戸以西の企業や研究機関が海外でのビジネスチャンスや交流が拡大するきっかけにもなると考えています。また観光面でも、神戸以西へのインバウンド需要の波及効果も期待できます。神戸市としてインバウンドに神戸以西へしっかりと訪れていただくような取組を進めていくとともに、アウトバウンドとしてこれらの地域の方々に神戸空港を利用してもらえるような広域的な視点をもって市場開拓の取組を積極的に進めていきたいと考えています。

2025年は神戸空港国際化の元年となる重要な年であり、これらの取組を進めていくことで、関西の航空需要の拡大に繋げていき、神戸経済、そして関西経済全体の発展に貢献していきます。